

(株)えふえむ草津 第52回番組審議会議事録

1. 開催年月日 平成31年1月17日(木) 18時30分～20時00分
2. 開催場所 草津アマカホール 文化教室(1)
3. 委員の出欠 委員総数 6名 出席委員 6名

(出席委員)

岩佐卓實 岡本直輝 奥谷美津子
辻 信一 松田泰子 森 健蔵

(放送事業者側出席者)

青木 均(代表取締役)
山本正雄(事務局)

4. 議 題

- (1) 近況報告
- (2) 番組「くさつNOW」について
- (3) 前回審議会における改善意見等に対する措置事項
- (4) 訂正または取消し放送の実施状況
- (5) その他



5. 議事の概要

- (1) 近況報告

資料（１）のとおり

（２）番組「くさつNOW」について

平成30年12月5日にオンエアした「くさつNOW」を14分間に編集した音源を聴取いただいた後、番組審議に入った。

A 委員

小学生が絵日記を紹介していたが、こういった番組は学校で放送されているのか？

社長

現在は学校での放送は無い。

学校との連携が今後の課題となっていることから、子どもの関わっているイベントなどを収録しながら、具体的に「こういう素材がある」ということを示して、校長会にFMラジオとの連携を申し入れたい。

A 委員

絵日記などは、ホームページとも連動させるなど、草津市で取り入れられているICT教育の中で活用できるのではないか。

また、副読本などの教材に取り入れていただくこともできるのではないか。

こうしたことを通じて、子どもの頃から災害時に草津市には「えふえむ草津」があるということを認知してもらいたい。

B 委員

教材の見直しの際、防災の観点から意見を求められているが、現時点では防災に関する記載が見当たらない。

そうした視点からも申し入れされてはどうか。

A 委員

各学校には放送部があるので、大学ともコラボしながら市内14校で順番に担当していただくことができれば、週に1回の放送でも3～4か月に一度だけ協力いただければ良いので負担も少ない。

こうした取組を教材として使っていただけると良い。

C 委員

これができるれば、学校でどのようなことが行われているのかを知ることができるし、学校としても他校の様子が分かりますね。

社長

子どもたちの取組を、その場だけで終わらせるのはもったいない。

放送日時も工夫して、番組案内して子どもを切り口に色々な場面でラジオ放送すれば効果的。

C 委員

学校の様子を土曜日・日曜日や色々な時間帯でラジオから聞けると、父兄にも喜ばれる。

B 委員

守山の有線放送で学校の放送で生徒が本を読むというコーナーが有り、自分の子どもが登場する際には、家族で聞き入っていた。

また、修学旅行の際には「無事に着いた」という情報もあった。

こうした日常的なことがあって、災害時に役立つものとなる。

社長

修学旅行の際には、生徒さんから電話で声をいただくなど、色々な活用が考えられるので、校長会で提案していきたい。

C 委員

学生の頃は放送部だったが、学校内でしか聞くことができなかったので、当時は「残念だなあ」と思っていた。

また、聞くことによって勉強になったり、何かを知ることができるといった要素を入れたりすると良い。

社長

参観日に学校に行くだけが学校内の様子を知る唯一の機会だというのでは無く、日常的な事を知ることは大事なことはないか。

A 委員

大学では、「滋賀県に定着する学生をつくれ」と良く言われるが、学校教育の現場でラジオを取り入れることによって、草津市の魅力を感じて地域に根付く人づくりにもつながる。

D 委員

学校によっては、草津マンポなど郷土のことを校外学習している学校もある。

全校で、こういう話も絡めてできれば良い。

草津市民の中でも草津のことを知らない人も多いので、小学生の頃から郷土の事に触れる機会を持つことが大切。

A 委員

学校との連携はこの委員会の共通した意見。

子どもに郷土のことを発見してもらって、その声を届けるといったことも良い。

C 委員

子どもを絡めることは良い。

そこから、草津のことを知ってもらって、子ども達にも「我が故郷大好き」というようなことを感じてもらえるよう、一步一步進めていきたい。

E 委員

子どもの頃の思い出は、いつまでも印象に残っているので、そうしたことを言える機会を作ってもらいたい。

社長

先日の「草津小市ラジオ」で、地域の方が昔の頃の話をしていただいたのは大変興味深かった。

A 委員

子どもに地域の魅力を発見して話してもらったり、地域のことを自慢したりする番組を作っても良いのではないか。

C 委員

音源が編集されているかも知れないが、番組の最初の案内で「今回はいくつかの話題がある」と言っただくと聞きやすくなるのではないか。

人に話を聞いてもらう時に、例えば「3つの事でお伝えしたいことがあるので聞いてください」と言うと伝わりやすい。

また、子どもが絵日記を読み上げた後、そのことに対する感想なども入れると良い。

「小雨決行」という場合でも、「多少の雨でも開催されますよ」といった柔らかい言葉を選ぶことが必要。

番組が始まる前のイントロ部分の音について、「えふえむ草津」のオリジナルで印象に残るものがあつたら良いのではないか。

社長

一応、番組が始まる前の音源は番組ごとに決まったものを使っているが、その他の事は確かに私もそう思う。

C委員

書いていることは見れば分かるが、放送の場合は聞いて理解されなければならないので言葉を選ぶ工夫が必要。

制作段階での原稿づくりでの工夫や読む時のリズムも大切。

技術的には、話の導入部分の抑揚も重要。

番組によっては、パーソナリティの個性としてとらえられる部分もあるし、必ずしもそうでない場合もある。

F委員

市政広報番組で役所の人間が淡々と原稿を読んでいるように感じる時がある。

スピード感に関しても、ゆっくり読むのが良いのか、メリハリを付けて抑揚を付けたほうが聞きやすいのか・・・。

また、「草津小市ラジオ」の対談場面でゲストの声がすごく聞きやすかったが、マイク的位置などが関係しているのか？

E委員

対談相手は、尼崎市で14～15年ラジオ番組をされていた方だ。

C委員

収録時のマイク的位置が関係しているかも知れないが、対談相手の方は話をストレートに言って、声も良く、センテンスも短いので大変聞きやすい。

E委員

市政広報番組の中で、全て同じトーンで紹介されると、「草津小市」は民間が努力してやっている事業なのに草津市が補助金を出して行っている事業のように感じてしまう。

社長

この番組は、草津の様子や元気なまちづくりの活動をしている市民の情報を発信するという意図の番組であり、草津市からはその提供枠をいただいているという位置づけである。

E委員

冒頭で「草津市政番組 くさつNOW」とアナウンスしているが・・・。

社長

1時間番組で、全てを市政情報のようにしてしまうとそういう誤解が生まれる。

そこで草津市と協議中だが、来年度からは草津市内で取り組みをされているまちづくりの様子や先ほどの子どもさんの情報、各種情報を通常番組の中に散りばめていく方法に改めたいと考えている。

D委員

草津市からのお知らせを特定の人が担当していると、その声を聴いただけで草津市政の情報であるという印象を与えてしまうので、色々なパーソナリティを入れるといった工夫も必要。

社長

その点については、現在、少年センターの所長に青少年の話題に関するパーソナリティをお願いしたり、草津市の歴史を来年度退職される街道交流センターの所長がパーソナリティとして情報発信していったりしていくということを調整している。また、警察や消防

なども含めて、これら全てを草津市が提供するコーナーとして位置づけて、市政だけの情報だと誤解されないようにしていきたいと考えている。

更に、来年度から予定している観光ボランティアガイド協会の番組についても、草津市の魅力を情報発信することであり、それを草津市の提供枠で放送するという位置づけになる。

A 委員

様々な意見が出たので、来年度以降の課題として整理していく必要がある。

(3) 前回審議会における改善意見等に対する措置事項

別添資料2のとおり

(質疑応答)

D 委員

番組内容だけでなく、聞く側が聞きやすいように話をさせていただくことが大切。

特に高齢者への配慮が必要。

また、FM電波が届かないという問題も有るので、全市民が放送を聞くことができるように環境整備することも必要だ。

カーラジオに「えふえむ草津」を設定するなど、多くの方に聴いていただけるような工夫も必要。

社長

環境整備について、電波出力の増強については許認可権の問題がある。

20ワットへの増波を認めてもらうよう開局当初から電波局に交渉しているが、実現には至っていない。

また、中心市街地にタワーマンションが立ち並んでいるため都市型難聴になっている状況であり増波だけでは解消しない問題も有る。

草津市の屋上にアンテナが設置されているが、このままでは状況を抜本的に解消することは難しいので、山手側の高い位置、例えば立命館大学の校舎の上にアンテナがあると電波が届きやすくなるのではないかと考えている。

この場合、費用の問題と設置場所の協力、更には草津市の非常割り込み放送との関係を整理する必要がある。

また、できるだけ多くの方に聞いていただけるようカーラジオの設定やインターネットサイマル放送の利用促進、更にはA Iスピーカーやスマートフォンでの視聴などの普及啓発にも努めると共に、商店などでもFMを鳴らしていただけるように工夫していきたい。

B 委員

FM電波が届かなければ、防災スピーカーも作動しない。

渋川学区では、屋外スピーカーが鳴らないとの報告があり、電波が届かないということはラジオ放送だけの問題では無い。

渋川小学校で訓練があった時には、「草津郵便局周辺でサイレンが鳴らなかったので集合できなかった」と聞いている。

F 委員

現在建設中の駅前の再開発ビルの屋上にアンテナがあれば解消するのでは無いか。

社長

草津市に問題意識があれば、開発申請の際に行政が条件として付けることは簡単な話だったはずだが、タイミングを逸しているので現時点では難しい。

100メートル級の高層ビルを建てると電波障害が出るのは当然なので、その対策としてアンテナの設置や非常電源の確保などを求めることは可能であり、唯一のチャンスだった。

A委員

立命館大学と草津市は地域連携の協定を結んでいるので、工事費や運営経費を負担されるのであれば草津市の防災にも関わることであり校舎屋上にアンテナを建てることは可能かも知れない。

現在、災害時の物資搬送拠点となる立命館大学に電波が届かない状況であり問題だ。

F委員

電波が届かなくて、屋外スピーカーが作動しないことを危機管理課はご存知なのか？

B委員

カルテのようなもの書き記しているが、そのことに対する具体的な措置はできていないようだ。

C委員

何時どのような事が起こるか分からないので、災害時に屋外スピーカーが作動せず、大切な情報が届かない方が出る状況というのは問題。

社長

屋外スピーカーが作動しないという問題については調べてみる。

併せて、最低限、避難所には電波が届いてラジオが聞こえないといけないと考えている。

大きな災害時にはインターネットも使えなくなるので、こうしたことを切り口として電波が入るよう要請していきたい。

(4) 訂正または取消し放送の実施状況

該当なし

(5) その他

社長

新しい番組やコーナーについて、次回の審議会でお知らせしたい。

D委員

コミュニティFMは地域との密着性が求められているが、観光ボランティアガイド協会も協力できるので、「えふえむ草津」が主体となってスタジオ前のイベント広場などで積極的に事業を実施することも検討願いたい。

以前はイベント広場で朝市をされていたが、会場使用料が有料になったので無くなってしまったのは残念。

社長

予算や人員が不足している状況であるが、知恵を出して検討していこうと考えているので、その節にはご協力願いたい。

ところで、JRの遅延情報についても大切であり情報発信していければと考えており、駅内に設置されている観光案内書の観光ボランティアガイド協会の方からの情報提供していただけるよう、ご相談したい。

B 委員

学生はツイッターで情報を流しているの、そのグループに入ることも検討されてはどうか。

社長

信頼性も確保しないといけないので、「えふえむ草津」の情報サポーター制度も含めて考えていきたい。

E 委員

草津小市での生中継で「鮎ずしサンド」の事を紹介していただいた際、昨年度は売れ残ったものがすぐに売り切れた。

草津まちづくり会社で発行している「まちあるき新聞」と連携して、現地ロケなどができないか？

例えば、「子どもと一緒に行って過ごしやすいお店」といったテーマを決めて、インタビューなども交えてローカル色あるレポートができれば面白いのではないか。

D 委員

土曜日・日曜日には観光客が多いので、そういう人たちに情報が届くように、お店でFMラジオを流していただくなど、町の案内がされると良い。

例えば、近江牛を食べさせてくれるお店は何処かを尋ねられることもある。

「えふえむ草津」で、受信機を貸与することも検討されてはどうか。

社長

店舗に対して、のぼり旗の設置やラジオ放送を流していただき、その代わりにCMを入れさせていただくといった方法でFMサポーター制度を導入することも考えている。

放送料については、実態から乖離している部分もあるが、現在の契約も関連するため、すぐに全面的に改定することは難しい。

10周年記念キャンペーンとして利用いただきやすい価格設定にしたい。

A 委員

「みなくさまつり」は新快速が南草津駅に停車するようになったことを記念して開催されてきたが、住民の方はそのことをあまり知らない。新住民の方が町内会加入が減少しているという課題や独居老人が増えているという問題などを一緒になって考えて行くというような役割を担い、最後には防災につながるような機能を担うことができないか？

社長

FMは、草津市の抱える課題を市民と一緒に考えて行くための情報発信という役割を担うことが求められている。

同様に、草津市コミュニティ事業団も地域の課題や問題を伝えて、それを協働で解決していく役割を持っている。

コミュニティ事業団がFM局を持っているということの意味を考えて、来年度からはご指摘いただいた役割を担うことができるよう積極的に取り組んでいきたい。

例えば、ひとまちキラリ助成事業では、消防署OBの方々の方々の市民活動団体に助成することになったが、そうした団体と一緒に取り組んでいきたい。

次回は、3月14日（木）18時30分から アミカホール文化教室で実施する。

【議事録の公表方法】

①当社玄関カウンターに設置（1月28日～）

②当社ホームページへの掲載（1月28日～）

③番組「草津レポート」（2月15日12時～）の中で番組審議会の内容を放送

以上

平成31年1月17日

えふえむ草津放送番組審議会 近況報告

・近況報告として、前回11月15日以降の大きな取り組み、そして今後の主だった予定等について報告させていただきます。

・まず、11月以降における新たな取り組みとしては、元気な草津・元気な市民の皆さんの活動を伝えるべく、公共公益放送の充実を目指した市内各所で行われている各種イベント・事業等の収録と番組としての放送で、具体的にいうと、「秋のJazzコンサート」や「みなくさまつり」、「ビブリオバトル」、「草津駅伝」、「クリスマスコンサート」、「ひとまち・キラリ公開ヒアリング」、「ジュニア野球教室」などの収録を行い、そのうちの一部は、毎週金曜日の新たな放送枠である「草津レポート」で放送を行ってきたところです。

・なお、新たな番組コーナーとしては、11月23日から、月に2回、本審議会委員でもある松田さんをインタビューアに「橋川市長の「大好き草津」」の放送を始めております。

・また、特別番組としては、12月15日(土)に、まちづくり会社が中心市街地公共空間賑わい創出事業」として開催されました「草津小市」について、私どもの放送局が公益型事業としてどのような体制で臨めるかを模索しているところであったことから、特設スタジオ型の場を現地に設けて3時間半の中継を行うとともに、イベント実施の1時間前から「草津小市」紹介番組・啓発番組を行ったところです。

・そして、大みそかには、5時間の年末特別番組「生放送！みんなのエフクサ2018」を菅野らさんをナビゲーターに生放送でお送りさせていただきました。

・なお、この3月で、開局10周年となることから、大幅な番組編成の充実や見直しを行えないものかと考えており、本審議会委員でもある森さんが会長をしてくださっている観光ボランティアガイド協会様をはじめ、市教育委員会や草津警察署、少年センターなどなどと協議・相談をさせていただいているところです。

・こういった幅広い各種取り組みをホームページでも知っていただけるよう、オンデマンド放送やブログ発信強化など「見える化」の取り組みも進めておりまして、今後も、戦略的に情報発信やAI活用を進めてまいりたく考えております。

・また、防災面に関しては、今月10日に、県内のラジオ局の枠を超えた災害時の協力体制の構築のため、NHK 大津放送局をはじめとする県内6放送局が「滋賀県防災ラジオ協議会」を立ち上げたところでして、今後、平常時と大規模災害時に県内各局と協力して取り組んでいける体制整備にも努めたく考えております。

・そういったもの以外の、現在進行形で行っておりますことを加えて申しますと、生放送を行っている時間帯以外の時間帯における音楽等放送については、2月後半を目途に、えふえむ草津が保有している限られた音源からの放送番組の制作ではなく、今後、4月以降の番組の見直しにも柔軟に対応できるよう、コミュニティ放送局向けに「ミュージックバード社」が制作されている番組の配信を受けて放送をしていこうかと、現在調整を行っているところです。

・また、4月以降の番組の充実を目指して、現在、パーソナリティとして放送に携わっていただいている皆さんの意見や提案をお聞きする意見交換の場を、来週の21日と23日に開こうかと考えているところです。

・そして、開局10周年を記念して、来る3月21日（木・春分の日）には、放送局スタジオ前のイベント広場で、特別番組や簡単なイベントを実施しようと思っております、今後急いで内容をつめていきたく考えております。

・報告の最後となりますが、その他の放送では、月例ではありますが、12月19日（水）に、クリアホールでラジオロビーコンサートを中継させていただきました。

・以上、近況の報告とさせていただきます。

前回開催の番組審議会での改善意見、質問に対する措置事項

平成30年10月4日（木）午後5時5分から放送いたしました“イブニングロケッツ785”の2時間番組を15分間に収録し直したものを聴取いただいた後、番組内容を審議していただきました。

委員からの質問や意見

- 1 パーソナリティの声が聞きやすいのに比べ、アシスタントは相槌を打っているだけで役割が果たし切れておらず、もう少し掛け合いが必要ではないか。
- 2 効果音など話題に関連した音やゲストに関係する音楽、出演者の演奏などを流せば、もっと情景がイメージできるのではないか。
- 3 聞き耳を立ててもらえるような工夫をしつつ、草津市と関連する話題をどんどん取り上げてもらいたい。
- 4 どういうリスナーを対象としているのか。対象としている年齢層をもっと意識した番組づくりを行ってもらいたい。
- 5 草津なりの特色を持たせる中で、情報を繰り返し伝えることも大切。そして、それが災害時や緊急時にえふえむ草津を聞けば情報が得られるといったことに繋がる体制づくりを常に考えておくべき。また、子どもの頃からFMラジオを知ってもらおうといったことも重要であり、身近な学校の取り組みを昼休みに放送するとともに、夜にも再度放送するなど、リスナーを意識すると魅力的な番組も増えていくのではないか。
- 6 FM放送を聞ける環境整備も必要。高齢者は聞く時間はあるがラジオを持っていないといった状況にあるので、防災が目的だったら防災用にラジオを配布するといったことも必要ではないか。
- 7 停電時にラジオは有用性を発揮するし、日頃から「78.5MHz」を知ってもらえるよう広報活動に努めてもらいたい。例えば、商店街での785円セールやステッカー、「広報くさつ」の広告枠なども利用できるのではないか。
- 8 地域まちづくり協議会との連携も大切ではないか。
- 9 情報は自らが取りに行くという時代であり、その時間帯になれば必ず聞きたいと思えるような番組の提供や聞いていただける仕掛けが必要。

えふえむ草津側からの回答

- 1 パーソナリティとアシスタントがそれぞれのスキルと高めていくとともに、どのように役割を果たしていけばいいのかについて、もっと考えてもらうようにする。
- 2 今回の編集の仕方の問題かもしれないが、今後は、スタッフが不足する中であっても情景をイメージできる番組となるよう努めていく。
- 3 草津を起点としての話題の紹介を行うとともに、内容も掘り下げていくことが大切だと考えている。
- 4 情報を誰に届けようとしているのかターゲットを明確に意識することが大切と考えており、今後はそういった観点で番組構成全体を見直していきたい。
- 5 災害時や緊急時にえふえむ草津を聞いてもらえるようにするため、毎日の放送で聞きたくなる生活情報を取り上げるといった工夫をし、草津ならではの放送に努めたい。また、「子ども」に焦点を当てた番組や草津を訪れた人への観光情報などについても発信していきたい。
- 6 現在、クラウドファンディングを活用したラジオの配布やインターネットやスマートフォンで放送が聴けることの普及啓発、A I スピーカーの活用などを模索している。
- 7 サポーター制度の整備等、来年度からは新たな取り組みを行っていきたい。
- 8 今後、各学区（地区）のまちづくり協議会や地域イベントとの連携をより一層進めていきたい。
- 9 その時間に聞きたくなるような番組構成を工夫していきたい。また、オンデマンド放送なども活用していきたい。